

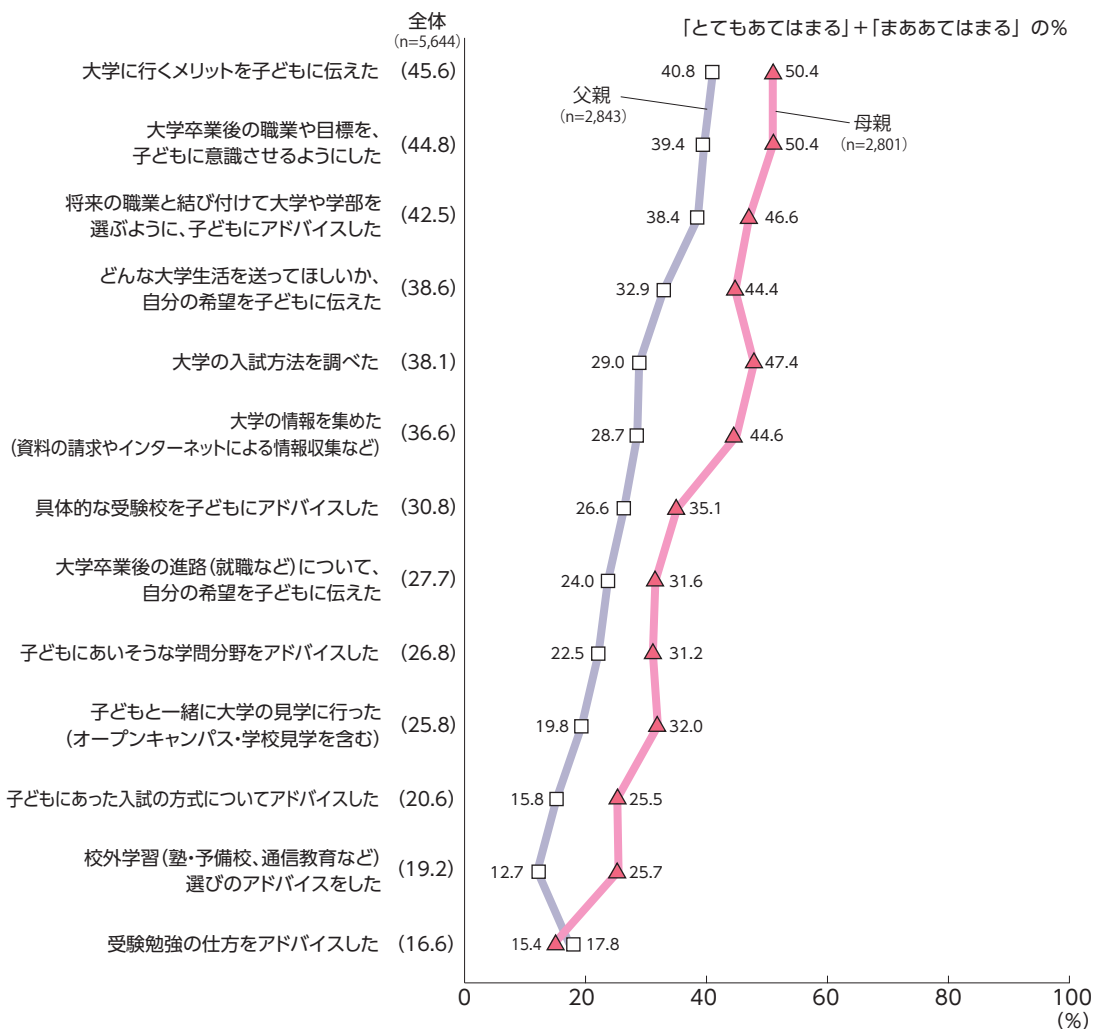
① 子どもの大学選びへの関わり

母親は父親よりも様々な面で子どもの大学選びに関与。

Q

お子様の大学選びに関して、あなたご自身には次のようなことがどの程度あてはまりましたか。

図 1-1 子どもの大学選びへの関わり(父母別)

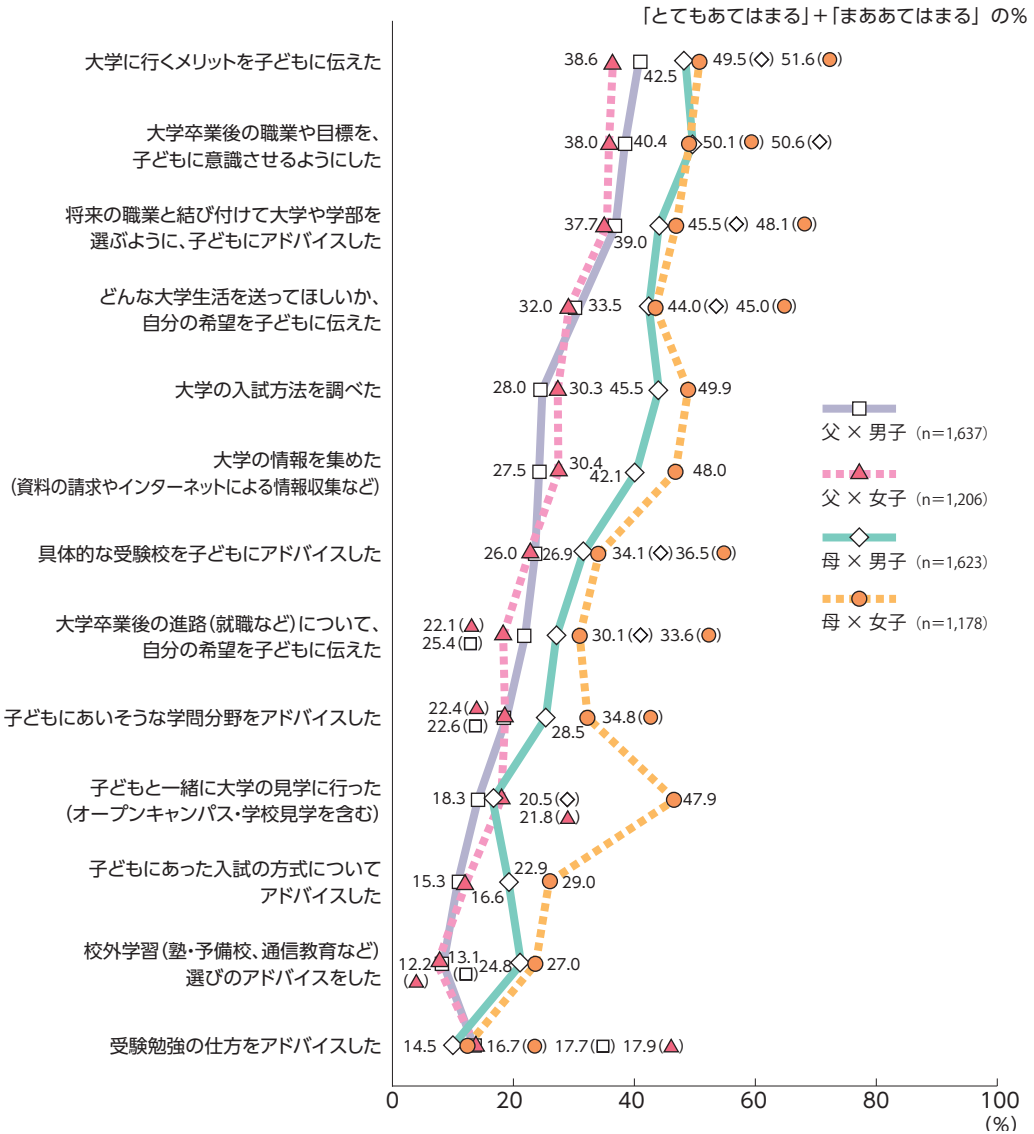


注)子どもが大学の附属校からの内部進学である保護者は含まない。

子どもが大学選びをする際、母親は父親よりも、様々な面で子どもに関わっていたと回答している。特に、「大学の入試方法を調べた」母親の比率は47.4%（「とても+まああてはまる」の%、以下同）で、父親よりも18.4ポイント高く、「大学の情報を集めた(資料の請求やインターネットによる情報収集など)」では15.9ポイント、「校外学習(塾・予備校など) 選びのアドバイスをした」では、13.0ポイント高くなっている。唯一、「受験勉強の仕方のアドバイスをした」では、父親の比率が母親を上回っている。

オープンキャンパスなどの大学見学へは、子どもが女子の場合は、5割弱の母親が一緒に行っているが、男子では2割程度。

図 1-2 子どもの大学選びへの関わり(父母×子どもの性別)



注)子どもが大学の附属校からの内部進学である保護者は含まない。

子どもの性別に、父母の大学選びへの関わり度合いをみても、違いが大きいのは「子どもと一緒に大学の見学に行った(オープンキャンパス・学校見学を含む)」で、子どもが女子の場合、母親の47.9%が「あてはまる」(とても+まああてはまる)と答えている。子どもが男子だと20.5%である。その他にも母親では、男子より女子の方が関わり度合いの大きい項目がいくつかみられるが、父親は、子どもの性別による関わり度合いの違いはあまりみられない。

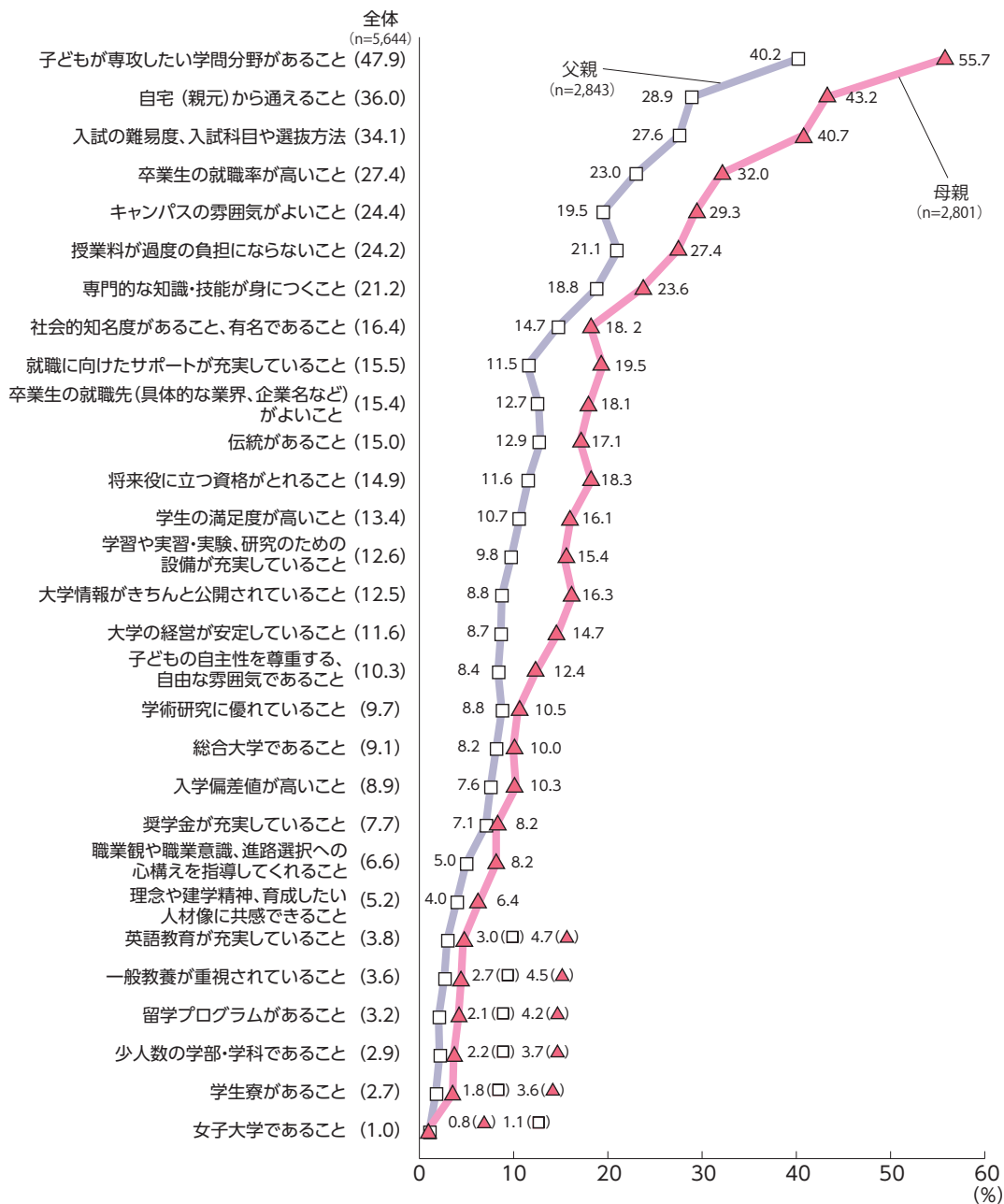
② 大学選択で重視したこと

保護者が重視しているのは「子どもが専攻したい学問分野があること」、次いで「自宅(親元)から通えること」。

Q

次の中であなたご自身が、お子様が受験する大学・学部を選んだ時に重視した項目についてあてはまるものを全てお選びください。

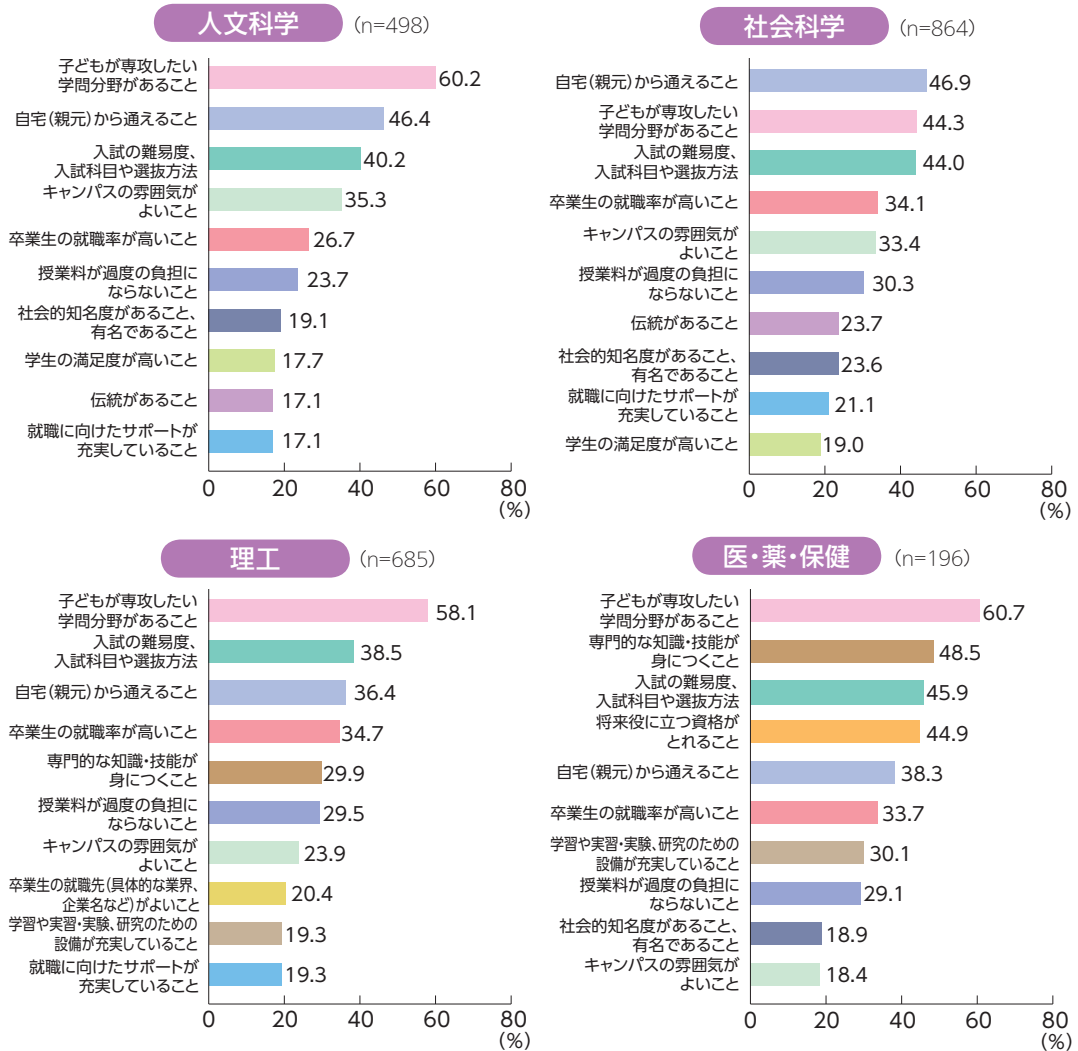
図2-1 子どもの大学選択で重視したこと(父母別)



注) 図2-1~2は子どもが大学の附属校からの内部進学である保護者は含まない。

「子どもが専攻したい学問分野があること」は「人文科学」「医・薬・保健」「理工」系統では約6割が重視しているが、「社会科学」系統では4割台。

図2-2 子どもの大学選択で重視したこと（母親・子どもの学部系統別・上位10項目）



注)学部系統別の集計対象はサンプル数の多い4学部系統のみとし、その他は省略している。学部系統の詳細はp.3を参照。

保護者が子どもの大学選択において重視したことをたずねた結果をみると、まず、全体に母親の方が関心の高い様子がうかがえる(図2-1)。父母ともに最も高いのは、「子どもが専攻したい学問分野があること」である。これを子どもの学部系統別に、関心の高い母親の方のデータでみると、「人文科学」「理工」「医・薬・保健」系統では6割前後が重視したと回答しているのに対し、「社会科学」系統では5割を下まわっており、「自宅(親元)から通えること」の方がわずかに高くなっている(図2-2)。また、「専門的な知識・技能が身につくこと」は「医・薬・保健」系統では約5割と高いのに対し、「人文科学」「社会科学」系統では上位10項目に入っていない(人文科学15.4%、社会科学12.3%)。